

早期水稲における平床育苗のための被覆資材							
<p>【要約】 早期水稲の平床育苗においては、白色ポリ発泡スチロールフィルム（下）と黒色不織布（上）の二重被覆を行うことにより、出芽が安定し、省力的に健苗が得られる。</p>							
筑後分場・普通作物研究室					連絡先	0944-32-1029	
部会名	農 産	専門	栽 培	対象	稲 類	分類	普及

【背景・ねらい】

早期水稲における育苗は、一般的にビニルハウス内での積重ね出芽による育苗が行われている。しかし、積重ね出芽では積重ねの位置によって出芽むらが発生しやすく、出芽を揃えるためには育苗箱を積み替える必要があり、労力を要する。そこで、省力的な平床育苗に適する被覆資材を明らかにする。

【成果の内容・特徴】

- ①白色ポリ発泡スチロールフィルム（ホットンカバー）を下に、黒色不織布（黒色ラプシート）を上にした二重被覆は、昼間の適度な温度上昇効果と夜間の保温効果を合わせて持っている（図1）。
- ②二重被覆による平床育苗は、低温期（2月下旬以降）でも、播種から出芽期までに要する日数は5～6日と比較的短く、出芽揃いが良好である（表1）。
- ③この2資材の二重被覆により、慣行の積重ね育苗と同程度の健苗が得られる（表1）。
- ④播種、覆土をした育苗箱をそのまま育苗床に並べて出芽させることが可能となり、積重ね出芽に比べて省力的である。

【成果の活用面・留意点】

- ①水稲栽培技術指針に登載し、県南の4月中～下旬移植の早期水稲の育苗技術として活用する。
- ②被覆期間中、昼間はハウス内気温が30℃以上にならないよう留意し、被覆の除去は苗長3cm程度を目安とする。
- ③緑化終了後でも、夜間の気温が5℃以下になることが予想される場合には白色ポリ発泡スチロールフィルムで被覆し、保温を図る。

[具体的データ]

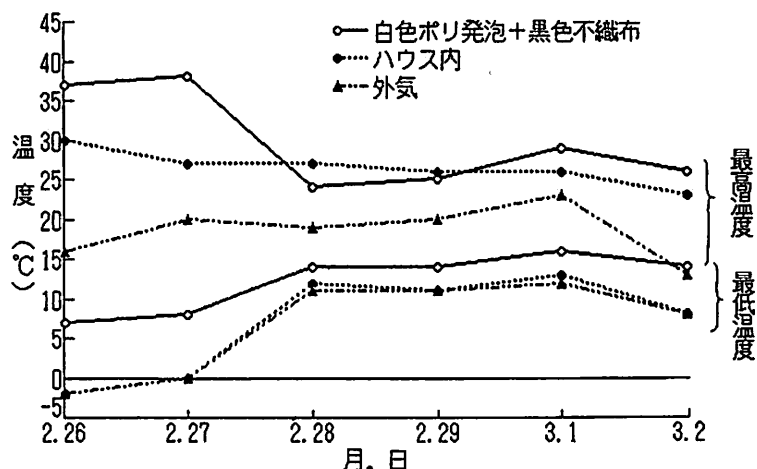


図1 被覆下の最高・最低温度の推移(平成4年2月25日播種)
注) 2月26~27日は晴天、28~29日は曇天であった。

表1 苗の形質、苗マット強度及び発根量(平成4年)

播種日	出芽法	育苗日数	出芽期 までの 日数	被覆 期間	出芽 むらの 有無	移植時の苗形質				苗マット 強度	発根量
						苗長	苗齢	乾物重	苗丈比		
月.日		日	日	日		cm	L	mg/本		kg/10cm	
2.25	平床	45	6	8	無	15.3	3.4	27.7	1.8	2.2	85
//	積重ね	//	2	2	やや有	13.9	3.6	30.5	2.2	2.3	85
3.6	平床	45	5	7	無	15.6	3.5	34.3	2.2	3.0	197
//	積重ね	//	2	2	やや有	14.3	3.6	32.8	2.3	3.2	190
3.21	平床	30	5	9	無	13.3	2.3	17.9	1.3	3.0	-

- 注① 被覆資材は白色ポリ発泡スチロールフィルム(下)と黒色不織布(上)。
 ② 苗マット強度は、幅10cmに切り取った苗マットの一方を固定し、もう一方をバネ秤で引っ張り、マットが切れる瞬間の値。
 ③ 発根量は、根を切り取った苗を移植13~16日後に抜取り、最長根長と根数の積より算出。

[その他]

研究課題名: 筑後平坦肥沃地における早期コシヒカリの安定生産技術

予算区分: 経常

研究期間: 平成4年度(平成2~4年)

研究担当者: 福島裕助、松尾太、中村晋一郎、土居健一、大賀康之

発表論文等: 早期水稲の平床育苗における数種被覆資材の実用性、九農研、55号、1993

平成2~4年度筑後分場夏作試験成績概要書